

全国の酪農家の皆様へ

毎年弊社の飼料作物種子を御愛用いただき心から厚く御礼申し上げます。

今秋も皆様のために、秋播飼料作物、種子を準備いたしました。発芽は勿論のこと、その特性の保持、あるいは雑草種子の混入防止などに特段の注意を払って準備いたしておりますから、本誌御覧の上、安心して御用命下さいますよう心からお待ち申し上げます。

秋播飼料作物栽培上の注意

暖地では、秋が牧草播種の適期です。また、その他の数々の飼料作物が秋播き利用されます。これらの作物を栽培するに当たっては、自分の経営規模や立地条件に応じて作物をえらび、栽培規模、方法を決定しなければなりません。計画的な作付が成功への第一歩です。この計画立案に当たっては次のことに御注意下さい。

- 1 自給飼料給与計画をたてること 初冬から早春、更に翌夏に到る飼料の給与計画や3~4年間に亘る牧草地利用計画などに合わせて作物をえらびます。
- 2 あらゆる土地から飼料を生産すること 一般作物と異なり飼料作物はあらゆる土地で生産可能です。狭い農地を拡げ、狭い耕地を広く利用するため、山野の草生改良、路傍、畦畔、河川敷、園地の草地化あるいは水田裏作、田

畑輪換畑まで飼料生産に活用します。

- 3 優良品種をえらぶこと 同じ作物をえらぶなら、すぐれた能力を持っている優良品種を利用し、生産の安定と反収の増加を図ります。
- 4 栄養生産を考慮すること 飼料ですから反収増加の工夫と同時に、家畜のための栄養生産、即ち蛋白質、カロリー、ビタミンなどの生産増加を考慮して作物をえらび、適期に利用する計画が必要です。
- 5 地力培養をも考えること 飼料作物のなかには、牧草類のごとく、土壤保全、地力培養に役立つものが少なくありません。
- 6 適期に播種すること 年内利用の場合は勿論、越冬を安全にし、翌春の生産を高めるためには地域毎の播種適期におくれぬことが肝要です。

牧草と園芸 6月号目次

秋播飼料作物栽培上の注意	1	貴重なクロバ類	7
マンモスイタリオンライグラス	2	早春の青刈り飼料ライ麦	8
各地で活躍するライグラス類	3	水田での飼料作物	8
オーチャードグラスとチモン	4	青刈えんばく	9
草地造成	4	田畑輪換での飼料作り	9
強健で多収ないね科牧草	5	青刈作物の各種とり入れ方	10
赤クロバ 白クロバ ラデノクロバ	6	多汁質飼料 家畜かぶ	11
多収獲牧草地の作り方	6	利用別地帯別の適品種一覧表	12
牧草の女王アルファルファ	7		